

「3次元」に挑んだ谷津建設



今年6月にオープンした湘南港ヨットハウス



「湘南の波とヨットの帆」をイメージした屋根



自然光が入る開口面も



施設は「白」を基調にした2階建て



湘南の新しい観光名所としても期待される



公共ヨットハーバーとして利用可能

「県建築コンクール」で優秀賞に 製造業と連携、可能性示す

スだった。
施工した谷津建設と設
計者のヘルム（横浜）が
見事受賞した。

は、社員数50人の相模原
の中小ゼネコン。そんな
同社が受賞したのが、江
の島、湘南港ヨットハウ

「最初はこれまでの建
設工事と違っていまし
た。しかし、設計図を精
査して工事をイメージす
るうちに頭を抱えまし
た」と谷津社長は振り
返る。

の美しい波をイメージし
た屋根は、複雑な3次元
曲線だった。

体図を用いて工事する2
次元だ。

しかし、3次元曲線が
示されている設計図を見
ても、イメージはおろか
建築模型さえ作る手段が
見つからない。

■新しい連携を
今回、谷津建設はモノ
づくり技術と建築技術を
融合させた、いわば、3
D建築とも呼べる新し
いスタイルを確立した。

製造業にとっても、得
意技術が建築分野にも活
かせるという可能性を示
した。

谷津社長はいう。「ど
んな難工事でも「やれば
できる」と思いました。
連携により、建築分野で
も設計の自由度が広がり
ました。これからも製造
業とのコラボは続けてい
きたいと思っています」と。

■トリプル受賞
11月に行われた「神奈
川建築コンクール」一般
建築部門で優秀賞になっ
たのは湘南港ヨットハウ
100周年を迎える同社

■一本の電話が
白を基調にした新ヨット
ハウスは地上2階建て。
問題は2000平方メートル
を超える屋根だった。湘南
世界。つまり平面図と立

忠実に再現したものでっ
た。3Dプリンターを使
って仕上げたという。
「100分の1」の美
しいモデリングは、暗中
模索を続けてきた谷津建
設の谷津社長や技術者た
ちに光明をもたらした。
昨年1月から始まった
施工では、このモデリン
グを活用した。
とはいえ、現場には風
速10メートルを超える強風が2
日に1度はやってくる。
下準備から打設までの作
業を慎重に進めていった
という。

今年6月にオープンした湘南港
ヨットハウス（湘南港湾管理事
務所）。県がヨットの聖地・江の
島に建設した。湘南の新たな観光
シンボルとして期待される同施設
は、「湘南の波とヨットの帆」をイ
メージして数多くの曲線を用いた
屋根が特徴だ。施工を担当した
のは谷津建設（相模原市中央区東
湘野辺、☎042・752・203
8）。ただ、当初は難工事が予想
された。波形の屋根は美しいデザ
インだが、「2次元の世界」である
従来の建築技術では難しい。大手
ゼネコンでさえ解決策が見いだせ
ない。そうしたなか、地域の中
小ゼネコンである谷津建設は、製
造業との異業種連携を進め活路を
見いだした。



3次元モデルを紹介する谷津社長

そんな折、谷津社長の
もとに一本の電話が入っ
た。相模原市内の試作メ
ーカーで、知人でもある
湘南デザイン社の松岡康彦
社長からだ。社長は「電話の
内容は別件でしたが、つい
に設計図や3次元について相
談してみたい。そうしたら
「うち（湘南デザイン）は
専門だよ」ということにな
りました。とりあえず
設計図を渡して3次元模
型の製作を頼みました」（
谷津社長）。